

日々研鑽

～職員が取得している資格を紹介します～



当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定の分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

理学療法士の認定資格

運動器認定理学療法士

今回は、運動器に関する理学療法士の認定資格についてお話をさせていただきます。

まず「運動器」というワードですが、あまり馴染みがないかもしれません。運動器とは、身体の運動に関わる骨、筋肉、関節、神経などの総称であり、主に整形外科で診療される分野です。骨折や変形性関節症などの骨関節疾患、靭帯損傷等のスポーツ障害、発生頻度の高い腰痛や五十肩などに対して機能回復や社会生活への復帰を目的に行われるのが「運動器リハビリテーション」です。

実際のリハビリでは症状だけでなく生活像、運動習慣、必要に応じて家屋環境までお伺いし、目指すべき状態や目標を患者さんと共に設定していきます。筋力や関節可動域などの身体機能の検査測定、実際の動作の様子を確認し姿勢・動作指導や生活指導、自主トレーニングの提案をさせていただきます。



どんな資格？

「理学療法士」の認定資格です。日本理学療法士協会が認定している資格制度で、理学療法士の専門性をより高めていくことを目的としています。日本理学療法士協会は、生涯学習の一環として複数の専門分野の中から1つ以上を選び、認定資格取得を目指すことを推奨しています。理学療法士協会の会員数は年々増加しており現在133,990名となっています。そのうち運動器認定資格者は約4,500名です。

運動器認定資格取得時の目指すところは「骨折、外傷、骨関節疾患などによる運動器障害の理学療法に関する知識と技能を習得し、一定の経験を有し、安全で適切に実践することができる」とされています。認定資格取得には、新人教育プログラムと呼ばれるいわゆる基礎的教育を約1年間かけて修了することから始まります。その後専門分野を選択し学会参加、必須研修会や専門分野の協会指定研修などを一定数以上受講し、規定条件を満たすことで受験資格を得られます。

試験の内容

…『書類審査』と『筆記試験』に分けて実施されます。

□書類審査

症例レポート10例の提出が必要です。レポートでは各症例ごとに現状歴、リハビリ評価結果、リハビリプランと経過、考察を端的にまとめます。同じ有資格者による判定によって合否が決定します。

□筆記試験

共通問題9問 + 運動器領域問題15問の計24問で構成されます。安全かつ標準的な理学療法を行うための知識が問われます。合格率は例年約90%と高い水準で推移しています。

試験を受けるにあたり、基礎的な部分から時間をかけて復習したり、専門分野の治療手技研修に参加したりオンライン聴講を活用することで、知識の再整理にとっても有意義であったと振り返って感じています。認定理学療法士の資格は有効期限が5年間であり、研修会や学会への参加を通して研鑽を重ねることによって資格更新が可能です。2022年度に理学療法士協会の資格制度が大きく変わり、今後の資格更新には規定時間の研修会参加に加えて、学会発表や学術雑誌投稿のいずれかを行うことが必要となります。これまで以上に日々の研鑽に励みたいと思います。

最後に

突然の怪我や長期間患っている痛みなどで家事や就業、外出などの日常生活に支障が出て不安を感じた経験がある方は多いのではないのでしょうか。そうした方々に、今後の生活像や機能的な見通しを身体運動学的な観点から丁寧に説明することが求められている、と日頃の診療を通して感じています。

運動器において最も身近な症状の一つである腰痛を例にとると、腰痛の年間総発生件数がここ20年以上高止まりしていると言われていています。昨今のテレワークの普及による活動機会の減少や、労働者の高齢化に伴って腰痛保有率のさらなる増加が見込まれています。そのため、予防という観点で普段から体のケアを行うこと、自身でケアが難しくなった場合には悪化や慢性化をしないよう、早めに医療機関を受診し再発予防に努めることが重要であると考えます。正しい知識を持ち、適度な運動を取り入れることが痛みの慢性化に歯止めをかけることに繋がります。

日本理学療法士協会は、国民の方を対象として、「疾病・健康増進について分かりやすく伝える1冊」をコンセプトに、理学療法ハンドブックを作成しています。ホームページ上で公開されており、セルフチェック項目や自宅でできる運動などが分かりやすく記載されています。ご興味があれば一度目を通して見て下さい。

(リハビリテーション室
理学療法士 平嶋 寛也)



引用：公益社団法人 日本理学療法士協会
https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/handbook/